

聖書箇所 詩篇119篇

9節 「どのようにして若い人は自分の道をきよく保てるでしょうか。あなたのことばに従ってそれを守ることです。」

67節 「苦しみに会う前には、私はあやまちを犯しました。しかし今は、あなたのことばを守ります。」

71節 「苦しみに会ったことは、私にとってしあわせでした。私はそれであなたのおきてを学びました。」

105節 「あなたのみことばは、私の足のともしび、私の道の光です。」

メッセージ骨子：

<序論> 先月封切されたばかりの「ひみつのあっ子ちゃん」の映画を見てきました。加賀美アツ子という小学生が魔法のコンパクトを手に入れ、それに向かって「テクマクマヤコン」となえると、なりたいたいものに変身できるというお話です。秘密がばれたらそれで終わり！というのが鏡の精からのルール。いよいよ秘密がばれそうになって、これで最後の変身かというとき、彼女の念じるのが「私の一番なりたいたいものになーれ」でした。そういえば、自分がいったい何になりたいたいのか分からない、自分の夢が描けない、自分探しの旅がいつまでも終わらないというのが、私たちの悩みなんじゃないでしょうか。旧約聖書の詩篇119篇のヒミツの窓から聖書をのぞくと、そこにはみ言葉の光がどのように私たちを変えていくのかが描かれています。実はそこに理想の人生、理想のファミリーがあるのです。

<ポイント1> み言葉の光を持つ家庭、biblical family は 『清さを保つ』

2000年前のローマやコリントは、性的に混乱していました。現代に日本にも通じるどころです。かわいそうなのは、今の若い子らが聖書を知らず、み言葉に触れる機会もなく、性に対するマイナスイメージを持ち、まっすぐ向き合う事を避け、知らないうちに一線を越えてしまっていることです。現代の、この間違っただけの潮流を防ぐ防波堤があるとしたらそれは、とくに男の子たちに対し、「性はすばらしい。だからしっかりこれと向き合って、来るべき祝福の結婚を待て」と教えること。また若い男女に『妻と結び合い、ふたりは一体となる。』(創世記2:24)とあるとおり、「一つ」になった男女が、主の祝福のうちを夫婦として添い遂げることは最大の喜びであると教えること。この2つなのではないでしょうか。(詩119:9参照)

<ポイント2> み言葉の光を持つ家庭、biblical family は 『苦しみをも益と知る』

今年のオリンピックでは、金メダルを取って表彰台で君が代を聴いた人も、金メダルを期待されながら一回戦で敗退した人もいました。今の時点で前者が後者よりハッピーなのは間違いありませんが、長い人生から見た場合、今回金メダルを取った人が幸せで、そうでない人が不幸かと言うと、そうとも限らないのです。我々の考える良い悪いはすべて相対的です。私たちが死ぬ前に自分の人生を振り返って「あれやこれやあったけど、オレの人生はこれでよかった。」と心から思えるとしたら、それはキリスト信仰を持つ者だけなのではないでしょうか。本当の希望、揺るがぬ正解は、主の哀れみ、神が私に最高を用意してくださっているという信仰と信頼にあるからです。(詩119:71参照)

<ポイント3> み言葉の光を持つ家庭、biblical family は 『光の実を結ぶ』

オリンピックで金メダルを取ってもそのあとの人生で失敗した人がいます。人の勧めに乗ったわけですが、残念なことに自分の道ではなかったのです。自分らしい人生こそが光の人生。自分らしくない、自分の心に正直でない生き方は、たとえ人のうらやむ地位や収入があつたとしてもヤミの人生です。神は私たち一人ひとりに、特別な賜物を与え、それを発揮することで神に栄光をお返しするようにと、それぞれの人生を設計しておられます。それを見つけるための聖書。そして罪ゆえに暗闇を歩まざるを得なかった私たちの足元を照らすための光として、イエス様は来てくださいました。

「イエスはまた彼らに語って言われた『わたしは、世の光です。私に従う者は、決して闇の中を歩むことがなく、いのちの光を持つのです。』」(ヨハネ8:12)

<まとめ> 親父として、今私のすべきは、私の着地を決めることなんじゃないでしょうか。おれの生き方はこうやった。おれの残そうとしている実はこれや。お前らも、イエス様と相談してしっかり決めてや。実を残してやって。それぞれに自分の落とし所と実の結びどころを知り、主のために働くという共通のベクトルを持つ家族は、なんと祝福された家族でしょう。主よ、どうぞあなたが、この栄光をお取りください。「イエスは彼に言われた。『私が道であり、真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれひとり父のみもとに来ることはありません。』」(ヨハネ14:6) 以上